

事項	デルフィニウム「スピアーシリーズ」の据置栽培における採花期と切り花品質					
ねらい	県が育成したデルフィニウム新品種「ブルースピアー」、「イエロースピアー」、「アメジストスピアー」について、据置栽培（冬期間ハウス除覆）における採花期と切り花品質を明らかにしたので参考に供する。					
指導参考内容	1 萌芽数と越冬1番花の採花期・採花本数及び切り花品質					
	品 種	萌芽数 (本/株)	採花期	採花本数 (本/株)	切り花長 (cm)	花穂長 (cm)
	ブルースピアー	3～6	6月下旬	2～3	135～185	60～75
	イエロースピアー	6～7	7月上旬	2	120～145	25～35
	アメジストスピアー	6～8	6月下旬	2～3	135～155	35～45
2 越冬2番花の採花期・採花本数及び切り花品質						
品 種	採花期	採花本数 (本/株)	切り花長 (cm)	花穂長 (cm)		
ブルースピアー	9月上旬～10月中旬	1～2	110～120	50～60		
イエロースピアー	9月中旬～10月下旬	0.5	75～80	20～25		
アメジストスピアー	9月上旬～10月中旬	1～1.5	70～90	20～40		
3 栽培上の留意点						
(1) 各品種とも萌芽揃い期に側芽を整理し、株当たり2～3本に仕立てる。						
(2) 据置期間は2～3年とし、欠株の発生状況を見て終了または改植する。						
(3) 越冬1番花は切り花長が長めで茎が軟らかいため、ハウスの被覆時期や過灌水に注意する。						
(4) 夏期は遮光、換気等を行いハウス内が高温にならないようにする。						
(5) イエロースピアー及びアメジストスピアーは越冬2番花の茎が細く、ボリューム不足となりやすいので、出荷に当たっては出荷規格を遵守する。						
期待される効果	デルフィニウム「スピアーシリーズ」の作型確立により作付拡大が図られる。					
利用上の注意事項	1 本資料は、冬期間ハウス除覆の据置栽培に適用する。 2 採花期、切り花品質は、年次、地域によって変動することがある。					
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センターフラワーセンター21あおもり 栽培開発部（船木一人）	対 象 地 域	県下全域			
発表文献等	平成18～19年度 青森県農林総合研究センターフラワーセンター21あおもり花き試験成績概要集					

【根拠となった主要な試験結果】

表1 越冬状況及び採花期・採花本数

(平成18～19年 青森農林総研フラワーセ)

年次	品種・定植後年数	残存株率 (%)	萌芽数 (本/株)	越冬1番花 (月/日)			採花本数 (本/株)	越冬2番花 (月/日)			採花本数 (本/株)
				採花始	採花盛期	採花終		採花始	採花盛期	採花終	
H18	ブルースピア-2年目	95	3.1	6/23	6/26	6/30	2.7	9/14	9/22	10/27	0.9
	イエロースピア-2年目	100	6.0	7/5	7/7	7/9	3.1	9/25	10/6	10/20	0.6
	アマジストピア-2年目	100	6.7	6/23	6/25	6/29	3.6	9/2	10/6	10/25	1.3
H19	ブルースピア-2年目	95	5.4	6/24	6/25	6/27	2.3	9/2	9/15	10/10	1.9
	ブルースピア-3年目	91	4.3	6/25	6/27	6/30	2.0	8/31	9/23	10/15	1.7
	イエロースピア-3年目	100	6.5	6/29	7/1	7/3	1.4	9/7	9/28	10/15	0.5
	アマジストピア-3年目	100	8.0	6/22	6/24	6/26	2.0	9/4	9/25	10/5	1.0

(注) 1 残存株率及び萌芽数は両年とも4/12調査 残存株率は、萌芽株数/定植株数×100  
2 仕立て本数は、H18は放任、H19は萌芽揃期に2～3本/株に整理

表2 切り花品質 (越冬1番花)

(平成18～19年 青森農林総研フラワーセ)

年次	品種・定植後年数	切花長 (cm)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	側枝数 (本)	小花数 (個)	切花重 (g)	下垂度 (度)	花飛	
										率 (%)	程度
H18	ブルースピア-2年目	147.5	63.6	5.9	20.0	2.4	64.0	99.9	12.2	—	—
	イエロースピア-2年目	121.0	25.1	3.5	29.2	2.6	39.9	81.0	4.9	—	—
	アマジストピア-2年目	138.6	35.2	4.8	20.2	2.3	57.0	73.9	13.5	—	—
H19	ブルースピア-2年目	138.8	62.1	7.2	6.9	2.1	63.7	100.4	35.8	0.0	—
	ブルースピア-3年目	185.5	78.6	9.5	10.6	3.9	64.3	163.9	21.3	0.0	—
	イエロースピア-3年目	147.4	35.2	8.1	11.5	3.1	27.9	117.9	21.0	0.0	—
	アマジストピア-3年目	156.7	44.9	8.5	11.3	3.6	50.1	132.4	10.7	6.7	無～微

(注) 1 花飛率は花飛発生本数/調査本数×100  
2 花飛程度は調査個体を無(0)、微(1)、小(2)、中(3)、多(4)、甚(5)で評価し平均値の範囲を示したもの

表3 切り花品質 (越冬2番花)

(平成18～19年 青森農林総研フラワーセ)

年次	品種・定植後年数	切花長 (cm)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	側枝数 (本)	小花数 (個)	切花重 (g)	下垂度 (度)
H18	ブルースピア-2年目	116.5	54.0	4.1	12.8	1.8	31.3	68.6	7.4
	イエロースピア-2年目	78.5	23.8	3.0	12.3	1.5	14.6	49.3	2.1
	アマジストピア-2年目	70.3	22.0	3.0	9.9	1.0	19.0	38.4	3.4
H19	ブルースピア-2年目	110.7	49.6	5.7	10.6	1.9	31.7	76.3	12.8
	ブルースピア-3年目	113.3	58.7	6.0	10.2	1.6	34.0	82.6	12.0
	イエロースピア-3年目	79.0	25.4	4.4	10.8	1.3	15.8	47.0	24.5
	アマジストピア-3年目	87.8	39.0	5.3	9.0	1.8	26.8	61.0	21.8

表4 仕立て本数と越冬1番花の採花期・採花本数及び切り花品質 (平成19年 青森農林総研フラワーセ)

品種・仕立本数	採花盛期 (月/日)	採花本数 (本/株)	切花長 (cm)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	小花数 (個)	切花重 (g)	下垂度 (度)	堅さ	花飛率 (%)
ブルースピア-2本仕立	6/27	2.0	185.5	78.6	9.5	64.3	163.9	21.3	0.2	0.0
ブルースピア-4本仕立	6/28	2.9	180.9	72.8	8.5	67.0	129.1	23.5	0.1	5.0
イエロースピア-2本仕立	7/1	1.4	147.4	35.2	8.1	27.9	117.9	21.0	-0.3	0.0
イエロースピア-4本仕立	7/1	2.1	142.1	31.0	6.6	26.3	86.5	28.0	-0.8	0.0
イエロースピア-放任	7/2	3.5	129.3	23.4	5.8	22.2	67.8	25.5	-1.1	0.0
アマジストピア-2本仕立	6/24	2.0	156.7	44.9	8.5	50.1	132.4	10.7	0.9	6.7
アマジストピア-4本仕立	6/25	3.0	143.9	38.3	7.2	43.7	95.7	15.2	0.7	10.0
アマジストピア-放任	6/26	4.7	134.8	33.6	6.2	39.7	75.0	18.8	0.3	0.0

(注) 1 花飛率は花飛発生本数/調査本数×100  
2 堅さは調査個体を触手により極堅(3)、堅(2)、やや堅(1)、中(0)、やや軟(-1)、軟(-2)、極軟(-3)で評価した平均値

【耕種概要】

試験場所：フラワーセンター21あおもり パイプハウス

栽植様式：うね幅160cm、株間20cm、条間20cmの4条植 (H18定植)、5条植 (H17定植)、無マルチ

施肥量 (kg/a)：堆肥300、苦土石灰20、基肥N：P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>：K<sub>2</sub>O=1.0：1.0：1.0、追肥は毎年1番花採花後等に適量を施した。

管理方法：冬期間積雪下、消雪後ハウス被覆 (H18;4/3、H1;4/2)・無加温、夏期間寒冷遮被覆 (6～10月)、仕立て本数の試験では2本仕立てが芽を2～3本/株、4本仕立てが芽を4～5本/株に整理、その外はH18は放任、H19は芽を2～3本/株に整理。